私達に出来ること

沖縄県立開邦高等学校一年　安仁屋　紫月

六月
照りつける灼熱の太陽に負けまいと
生命力みなぎり色濃さを増す緑
突然のスコールに瑞々しさを取り戻す
色とりどりの花々
吹きつける南風は、熱さを含み
夏の訪れを知らせている
私は、沖縄の自然がもたらす
エネルギーを全身に浴びようと
晴れ渡る青空に向かって
うーんと両手を広げて深呼吸

海に潜れば、日差しを受けて
煌めく水面と生き物たち
生命の輝きに沸き上がる歓喜
この島のパワーが私の原動力になる

きっと幼き日の曾祖母も見ていた
沖縄の美しい風景

「鉄の暴風」によって
瞬く間に破壊され、穢された故郷

七十四年前にもたらされた悲劇が
現在もなお、曾祖母を苦しめる
熱さを増していく風が
足元を暗くする雨雲が
脳裏に焼きつく光景を呼び覚ます
耳の奥にこだまする悲鳴が自分を呼ぶ

戦争は気づくとすぐ側だった
「よーい、ドン。」では始まらない
言われるがままに掘り、掻き出した土砂
誰のため、何のためかは知らない
目的を尋ねることなど許されない

竹やりを何度も案山子に突き刺した
竹やりで命を守れますか
家族を守れますか

なぜ、母は殺されたのですか

なぜ、二十万余りの人が死んだのですか
なぜ、沖縄が犠牲になったのですか
なぜ、なぜ、なぜ・・・

生きるために、悲しみから逃れるために
沸き上がる疑問は、無理矢理
心の奥に押し込んで、封印した
そうしなければ、
生きる希望を見出せなかった
胸いっぱいの怒りと憎しみを
ぶつける相手が、誰だか分からなかった

七十四年が経つ現在も、リュックは背負えない
母の遺骨を拾い集めた時を思い出すから
どうか、子ども達や孫達が
同じ目に遭うことがありませんように
願いは、それだけです

「なぜ？」の疑問が
私の胸にも沸き上がる
なぜ、戦争は起きたのか
なぜ、七十四年前の出来事が
罪のない曾祖母を苦しめ続けるのか
誰がこの問いに答えてくれるのか

「なぜ？」の声を上げよう
私達の愛する沖縄のために
「どうして？」の声を伝えよう
もう二度と、この島が
悲しみと絶望に包まれることがないように

目を逸らしてはいけない
沖縄の過去から
飲み込んではいけない
沸き上がる疑問を
傍観者になってはいけない
未来を築くのは私たちなのだから

戦争を生き抜き
繋がれた命と平和への願いを
受け取るのは私達なのだから